

1 公的年金の意義・役割

1 少子高齢化の進展

我が国の平均寿命は世界一の水準に達し、人口構造の高齢化が進む一方、生まれてくる子どもの数は減少傾向にあり、少子化が進んでいます。また、平成17年国勢調査による同年10月1日現在の人口は1億2,776万人で、総務省の「平成16年10月1日現在推計人口」（平成17（2005）年3月公表）と比べて2万人の減少となっており、我が国が「人口減少社会」を迎えつつあることが明らかになってきています。

＜表1-1＞平均寿命の推移（単位：年）

	平均寿命	
	男	女
昭和35（1960）年	65.32	70.19
昭和45（1970）年	69.31	74.66
昭和55（1980）年	73.35	78.76
平成2（1990）年	75.92	81.90
平成7（1995）年	76.38	82.85
平成12（2000）年	77.72	84.60
平成17（2005）年	78.53	85.49

（資料）厚生労働省統計情報部「生命表」

＜表1-2＞平均寿命の国際比較（単位：年）

国	作成基礎期間	平均寿命	
		男	女
日本	2005	78.53	85.49
アメリカ	2003	74.8	80.1
イスラエル	2003	77.6	81.8
韓国	2003	73.87	80.82
フランス	2003	75.9	82.9
アイスランド	2001-2005	78.9	82.8
イタリア	2002	77.11	82.96
ノルウェー	2005	77.72	82.52
スウェーデン	2005	78.29	82.58
スイス	2004	78.6	83.7
オーストラリア	2003	77.8	82.8

（資料）厚生労働省「平成18年版厚生労働白書」

＜表1-3＞65歳以上人口割合等の推移と見通し

	65歳以上人口／全人口	65歳以上人口／20歳以上65歳未満人口
昭和35（1960）年	5.7%	10.6%（9.5人で1人）
昭和45（1970）年	7.1%	11.7%（8.5人で1人）
昭和55（1980）年	9.1%	15.1%（6.6人で1人）
平成2（1990）年	12.0%	19.6%（5.1人で1人）
平成7（1995）年	14.5%	23.2%（4.3人で1人）
平成12（2000）年	17.3%	27.9%（3.6人で1人）
平成17（2005）年	20.0%	32.8%（3.0人で1人）
平成37（2025）年	28.7%	51.9%（1.9人で1人）
平成62（2050）年	35.7%	71.9%（1.4人で1人）

（資料）総務省統計局「国勢調査」、「人口推計」
国立社会保障・人口問題研究所「日本の将来推計人口（平成14年1月推計）」